学校教育目標　夢と志をもち，今を大切に生きる児童・生徒の育成

FIT 探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry learning Team

令和4年
9月29日
（木）
No.15

第2回研究推進協議会　中学校1･2年生研究授業を実施しました。

９月２０日（火）に西部教育事務所より宮田知典指導主事，東広島市教育委員会より花岡拓也指導主事に来校していただき，探究的な学習の研究授業を行いました。今年度初になる探究的な学習についての研究授業は，中学校１・２年生の総合的な学習の時間で行いました。

「収集した情報を整理・分析し，新たな課題を見いだしたり，今後の活動の計画を立てたりすることができる。」というめあてで，**生徒からみとる資質・能力を「主体的に学習に取り組む態度③協働性」に設定**して行いました。中学校１・２年生は＜福富の魅力を守ろう＞というテーマのもと，７つのグループに分かれて，各グループに担当の先生がついて別々の活動を行っています。この研究授業でも，各グループごとに別の指導案を作成して授業に取り組みました。**思考ツールを準備して協働の場面を設定したり，生徒同士の協議が活発に行われるようにファシリテーターとしての役割を意識したりしながら手探りで取り組んだ授業**でした。成果と課題を見つめなおして，よりよい探究的な学習を目指していきましょう！

小中合同研究協議会で話し合ったこと

成果・よかったところ・工夫されていたところ	課題・次の研究授業に向けて改善すべきところ
・課題意識を共有しながら，収集した資料や根拠に基づいて，構造的に考えるようになっていた。 ・**①思考ツール（ＰＭＩ，座標軸，ウェビングマップなど）を活用することで，情報が見える化され，考えるための軸がはっきりして，生徒間の関わりを増やすことができた。** ・生徒同士での思考が滞った時に，視野を広げたり，思考を深めたりする問いかけができていた。 ・グループ別の指導案があることで，教師が見通しをもつことができ，効果的な切り返しができていた。	・どうしても担当している教師に頼ってしまう。もっと生徒同士で考えを交流し，まとめていくような活動にしたほうがよいのではないか。 ・意見や計画の修正も生徒に行わせたいが，そのためには時間にゆとりが必要である。 ・どうしても時間のことを考えてしまい，教師が意見を出し，協議を進めてしまう場面があった。 ・計画まで進めていないグループがあった。共有に時間をとるよりも，そのまま協議させたほうがよかったのではないか。共有させるなら，その意味をもたせたい。 ・意見は出ていたが，見とりたい資質・能力「主体的に学習に取り組む態度③協働性」に行くのは難しい。そもそも**③「協力する力」と掲示したが，それが何なのかあいまいなままでは評価できない。**
その他の意見	
・**①思考ツールをこちらから出すべきか，いくつか出して選択させるべきか…。** ・想定外の方向の意見が出た場合，修正すべきなのか，どのようにすればよいのか…。 ・せっかく書いた**②振り返りを，もっと活用**すれば…。	

特に赤字にした３点について考えていきます。

まず①思考ツールについてです。活用することで生徒同士が協議しやすくなったというメリットが多く挙げられていました。**良い点が多くある思考ツールですが，必ずこうしなければならないというものではありません。**情報の整理の仕方も自分たちで考えるほうが，より望ましい探究的な学習になります。

ただ，初めての活動からすぐに情報整理の方法まで選択するのは難しいと思います。**総合的な学習の時間だけではなく，全ての教科でさまざまな思考ツールを活用し，情報を整理・分析していくことで，ようやく方法を選択する力が身に付きます。**その力を育てるために，教師はいろんな手法とその特徴を理解し，多様な場面でさまざまな手法を提案しながら，子どもたちと共に協働していく必要があります。

次に②振り返りの活用についてです。どの学年の活動も，毎時間児童・生徒にしっかりと振り返りを書いてもらっています。しかし，**子どもたちへのフィードバックが少ないのが現状**だと思います。授業の導入の部分で「前回の振り返りで〇〇さんがこんなことを書いていたんだけど…。」とグループで紹介することで，授業がつながっていき，子どもたちの中に「自分たちで活動を進めている！」と，**課題を自分事としてとらえる意識**が育ちます。また，目指す資質・能力をみとることができる振り返りを紹介することで，**どんな姿を目指して活動に取り組めばよいか，子どもたちの中に具体的なイメージができます。**あれだけ一生懸命振り返りを書いてもらっているのだから，活用しないのはもったいないです。ぜひとも次の授業から，振り返りを活用した導入を考えてみてください。

最後に③そもそも「協力する力」とは何なのかです。ルーブリックでは「自他のよさを生かしながら，協力して課題解決に取り組もうとしている。」と設定しています。しかし，子どもたちにどのような姿が現れたらその条件を満たすことになるのか，具体的な姿を教師間で共有できていませんでした。**複数の教員が同じ姿をイメージできなければ，信頼のある評価はできません。ある程度具体を設定しておく必要がある**ようです。ただし具体を絞りすぎると，その姿めがけて活動をしてしまうので，探究的な学習ではなくなってしまいます。その幅をどのぐらいに設定すべきなのか，探っていきましょう。

次の研究授業に向けて，意識すべきポイント

POINT.1　振り返りを活用した授業展開

POINT.2　ルーブリックに対する，子どもたちの具体的な姿の設定

これからの予定

１０月　６日（木）研究授業（小３・４）

全体
花岡指導主事来校

１０月２１日（金）研究授業（小１・２）

ブロック
花岡指導主事来校

１１月　７日（月）研究授業（中３）

全体
小坂指導主事来校
花岡指導主事来校

指導案について

提出前に FIT と検討会を行います。
授業日の２週間前には起案をしてください。
よろしくお願いいたします。

先達の言葉

地平線の先に辿り着いても
新しい地平線が広がるだけ
「もうやめにしようか？」自分の胸に聞くと
「まだ歩き続けたい」と返事が聞こえたよ

Mr.Children　「GIFT」より

思考ツールを活用したり，グループ別に指導案を作成したりと，様々な準備を重ねてきた研究授業がゴールを迎えました。しかし，それは新たなスタートでもあります。成果は生かしながら，課題解決に向けてアプローチをすることで，よりよい探究的な学習になります。歩き続けましょう！